

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 8月 31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4675100152号
法人名	医療法人 心晴
事業所名	グループホーム 花水木
所在地	鹿児島県伊佐市菱刈前目791 (電話) 0995-24-1182
自己評価作成日	平成26年8月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、利用者様が住み慣れた環境の中で日々、尊厳を持って穏やかに笑顔で生活して頂けるよう「花水木の心」という理念を掲げ、介護に従事しております。

目の前に広がる田園風景が季節ごとにその色合いや表情を変えていくのを楽しみ、散歩や近くのスーパーでの買い物の途中で近隣の方々とのふれあい、また、田植えや稲刈りの小学校行事の見学等で地域の方々との交流を深めています。それに伴い、種々の催事にはボランティアの方々にも多数参加頂き、演目の合間には思い出話、先の楽しみの話等弾んでおります。

そして、利用者様の今ある状況を丸ごと把握し、お一人おひとりの思い、力を遺憾なく発揮して頂きながらも「ゆっくり、優しく、穏やかに」過ごして頂ける為に、併設で協力医療機関でもある菱刈中央医院との連携を密にし、医療はもちろんリハビリテーションにおいても専門スタッフの協力を受けております。

利用者様お一人おひとりが可能な限り自立した生活を送って頂けるように(ご家族様にも安心して頂けるように)、「職員自身が後悔しないケア」で、全力でサポートさせて頂いています。

・事業所は、旧菱刈市街地に位置し、周辺は田園風景が広がるなど、のどかな光景である。スーパー、駐在所、保育園、小学校、総合保健センターなどの公共施設もあり、交通のアクセスもよく利便性良い。

・母体が医療機関であり、日常的に24時間体制で医療連携が図れておりホームの看護職を中心に他職種とのチームケアが実践され、方針を共有し緊急時や重度化、看取りといった段階を踏まえたホームにでき得る最大のケアについても十分に話し合い、本人・家族の意向に沿った支援をおこなっている。

・法人は、職員教育や資格取得にも熱心に取り組み、定期的に研修や勉強会を開催している。人事考課システムもあり子育て者に優しく、個人の事情に配慮した雇用を支援するなど適材適所での人材確保にも尽力している。

・定例化された運営推進会議は、家族参加に視点を置いて日程調整しているが、行政職員など主旨に協力的で積極的に会議への参加があり、事業所の取り組みや活動報告、外部評価結果などが報告され、メンバーから出された意見などより良いサービスの向上に繋げている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者が住み慣れた地域で尊厳を持ち、笑顔で過して頂きたいという思いを込め「花水木」（花の心、水の心、木の心）を理念に掲げ、実践している。	開設当初からの理念であり、花・水・木にたとえられた地域密着型サービスを意識した理念になっている。職員は、日頃から職員会議などで理念を共有し利用者が地域の人々と関わり、地域生活や交流が継続していけるよう法人全体で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業者で企画した敬老会等に地域住民の皆様に参加していただいている。	管理者は地域の総会に参加し地域とのつながりを図っている。事業所は地域の一員として交流ができるようホームの敬老会への案内や花火大会などの地域行事へも参加している。また、ボランティア、中学生の職場体験の受け入れなど柔軟に取り組んでおり、地域の小学生に野外活動の一環としてホームに寄ってもらい交流などしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	ボランティアの活動の受け入れ等で認知症やその接し方を理解して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催し、ご家族、民生委員、市職員、職員、施設長等の参加あり、毎月の活動報告に加え、施設の運営管理等について報告、参加者との活発な意見交換にてサービスの向上に活かしている。	会議は、定例化されており日程を家族中心で設定しているため家族の参加も多く、行政職員なども協力的で休みの日も快く参加をもらっている。また、年1回は、管理者と家族との面談が実施され、医学的な視点での指導や助言、意見交換がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議、地域の連絡協議会での情報交換の他、地域包括支援センター、市の長寿支援課、福祉事務所とは日頃より連携を図り、協力関係を築いている。</p>	<p>市担当者とは、運営推進会議や毎月電話や面談により様々な機会を通じて相談やアドバイスなど受ける機会があり、待機者情報や福祉全般に関する情報交換をするなどして関係性を築いている。また、福祉事務所の職員も毎月訪問があり連携を図り、協力体制がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>運営規定に明記しており、高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会も実施している。身体拘束廃止委員会を設置し必要に応じ検討会議を行っている。施錠だけにとどまらず、種々拘束についても日々意識して介護に従事している。</p>	<p>鍵をかけない暮らしが実践されており、「身体拘束廃止委員会」を設置して、現場で起こり得るケアの実態が拘束にあたるのかどうか必要に応じて県に確認するなど身体拘束が利用者にも与える弊害について職員全員で考える場がある。月1回勉強会を実施してできる限り身体拘束をしない取り組みを実践している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修や施設内での勉強会を行い、理解浸透や遵守に向けた取り組みに努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修への参加。伝達を行い必要に応じて活用できるように取り組んでいる。また、インターネットを活用し理解を深める機会は設けてある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者及び家族等に十分な説明を行い、理解を得ている。また、改定の際は運営推進会議に於いて協議し意見交換を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は家族が参加可能な率の高い日曜日に開催日を変更し、参加を呼びかけ、意見や提案を協議する機会を設けている。その他、面会時等に意見・要望が寄せられた場合は、報告し善処している。	利用者には、普段のケアの中で意見や要望を聞き取るようにしている。また、家族とは運営推進会議や年1回管理者との面談にて意見を出し合い運営に活かすようにしている。遠方の家族などには、通信誌を活用して意見を頂いたり、直接電話や対話の機会を得て反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の会議には法人から施設長、院長、事務長が参加し、現場の意見や提案を協議する機会を設けている。その他、常時連絡を取り合い、状況を報告できる環境になっている。	管理者は、年1回職員との個別面談を経て職員一人ひとりの職務への取り組みや研修体系、資格取得など多方面に意見を聞き取り評価している。今年度は、パソコン教室や介護記録の書き方勉強会など職員の意見を反映した教育プログラムに取り組んでいる。法人の教育体系が充実しており職員も内・外部研修にてスキルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人ひとりが個々の目標を掲げ、研修や資格取得へ向けた体制を整えている（勤務日の考慮等）。個々の努力や実績に対し、評価する体制の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月1回は法人内で、勉強会がある。また、毎月1回の施設内の会議に於いても折々に適した勉強会を行っている。法人外からの研修等のパンフレット等も配布される。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の連絡協議会に参加しており、各グループホームの職員の方々との交流、意見交換を行っている。会での意見や取り組みを報告し更なるサービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いを傾聴し、環境の変化、生活リズムの変化に戸惑われておられることを理解し、その思いに寄り添いながら信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの経過について傾聴し、その労をねぎらいながら、今後の家族の関わり等も含め、要望、疑問、不安等をいつでも気軽に職員の誰にでも話して頂ける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の置かれている状況を把握し、物心共に後悔のない選択をして頂くために十分な話し合いをし、必要に応じ、居宅支援事業所や各関係機関を利用できる対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が生活の主人公である事を念頭に置き、それぞれの個性を發揮できる環境と、共に食事をし、共に作業をし、共に泣き笑い出来る関係作りを築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「家族への手紙」を送り、その中に個人様の様子を手書きで書き添え、面会時にも様子をつぶさに伝えている。また、ホーム内外での行事への参加を呼び掛け、共に利用者を支えていく関係性の構築を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活情報を把握し、馴染みの理容。美容室等を継続して利用でき、馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。新聞購読や継続されている利用者や市報を届けて頂いている利用者もいる。	新聞購読をされる方、毎週家族が週刊誌を持参される方もいる。徒歩で行ける距離にあるいきつけの美容院、理髪店に行ったり、職員と買出しに近くのスーパーに出かけたり、家族と墓参りや外泊をする利用者もいる。また、お盆、正月には家族と過ごす方もおられ、事業所は馴染みの場所や関係性のある地域の方々、家族などとの絆が途切れることがないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について適切に把握し、利用者同士が良い関わりで支え合えるよう目配り気配りし、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約終了後も利用者の家族が立ち寄られたり、時に応じて職員が自宅を訪ねたり、出先でお会いした時など、その後のご様子の話や相談事等を受ける等、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初のサマリー等からの把握や入居後の生活の中からの情報収集等で把握に努めている。その情報を申し送りや記録に残し、全職員がその思いを共有し、希望に添えるよう支援している。困難な場合は非言語からの推測、家族からの情報等で本人本位に検討している。	担当者は日々の関わりの中で、本人の表情や言動を伺い真の思いを感じ取り、申し送り、ケア記録による情報の共有化、担当者を中心とした職員全員でのケース検討会などを通じて思いや意向を受け止め本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーはじめ、本人、家族、各関係機関からの情報等で、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な一日の流れはあるが、その日の心身の状況等に合わせた適切な支援を行っている。残存能力を発揮して頂くためにも個々の能力の全体像の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議は毎月行い、家族も含めたカンファレンスも適宜行われている。また、必要時には直ぐに、各利用者の担当職員を中心に随時カンファレンスを行い、各関係者の意見を踏まえ、現状に即した計画作成を行っている。	毎月のケース検討会議を始め、家族を含めたカンファレンスも定期的実施している。個別介護計画書は、公文療法など脳活性化に取り組んだり、日々の関わりの中で、利用者主体の暮らしを反映した介護計画になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアに加え、その日のバイタル、食事量、排泄状況等を記録し、勤務開始前には申し送りも含め確認作業を行い情報を共有を図っている。個々の情報を基に実践し、介護計画の評価、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や必要性に応じて、ホーム内での家族との食事や、外出、外泊等の支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員や、地域の民生委員、市の職員等に参加して頂き、近隣地域の情報や介護支援に関する情報交換を行う等協力関係を構築している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。法人の医療機関とは24時間医療連携が図られている。定期的な受診とホームの看護師による健康管理を密にし、本人、家族共に安心して生活して頂けるよう支援している。	母体は医療機関であり、24時間医療が受けられる体制がある。かかりつけ医は、本人、家族が希望する医療機関となっており、ホームの看護師による健康管理や医療連携が密に図られ、他科受診の協力体制もある。緊急時の連絡は、随時おこない本人、家族ともに安心して生活ができるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>菱刈中央医院と医療連携し、健康管理や状況変化に応じた支援を行うようにしている。また、介護職員も利用者の健康管理や状況の些細な変化も見逃さず、早期に適切な受診や看護を受けられる様支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の入院時には、支援方法に関する情報をサマリーにまとめ提供している。入院中も適宜訪問し、本人の安寧を図りながら、病院関係者と情報交換も密にし、関係作りを図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>当事業所における「看取りケア説明書」を作成し、入居時に説明して「終末期の意向確認」と「急変時対応希望所」にて同意を得ている。入居後はその時々に応じ、主治医の判断の下、家族と話し合い、全職員も含め方向性を共有して支援に取り組んでいる。</p>	<p>この2年間で、1名の看取りの事例があり重度化や終末期に向けたホームの指針「急変時対応希望書（同意書）」「看取りケア説明書」にて、本人のその都度の状態に応じた事業所ででき得る最大限のケアについて説明している。本人や家族の意向を踏まえ医師、職員が連携を取り、利用者、家族が安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思確認をしながら取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>蘇生術の研修を実施し、全職員が対応できるようにしている。また、緊急夜間マニュアルを整備し、協力医療機関と密な連携を図り、24時間協力体制にある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力の下、年2回危難訓練、避難経路の確認、消火器の取扱等の訓練を行っている。また、夜間の火災時を想定した避難訓練も独自に行っており、課題を見つけ、今後の安心安全の確保に繋げている。</p>	<p>年2回の昼夜想定避難訓練、自主訓練を実施している。地域は、商業地域であるが地域住民の夜間の協力体制があり、法人も隣接しているため協力関係が構築されている。自家発電、備蓄（缶詰・水など）も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳の気持ちを持って接する様にしている。特に新人教育時に於いて、「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」を駆使するよう指導している。方言に対しても同様に方言を使い分けて対応している。	接遇やマナーなどの研修会を研修計画に掲げ、職員一人ひとりが利用者の誇りを尊重し、礼節を持って年長者として敬い、失礼のないよう言葉かけしプライバシーの確保にも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた適切な声掛けや誘導を行い、その時々状況に合わせてながら自己決定して頂けるように支援している。意思表示が困難な方には表情やしぐさ等から読み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本スケジュールはあるが、起床、就寝、食事のペース、また、散歩、レクリエーション等もそれぞれの生活習慣に合わせて希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者本人の意向を確認、選択して頂き、好みに合わせた身だしなみができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	予めメニューは決めてあるが、利用者それぞれの嗜好に合わせていつでも変更可能である。ソーメン流しや花見のお弁当なども楽しんで頂いている。	献立は、1ヵ月ごとに作成し食事の形態を利用者が選ぶ機会を大切に支援している。中庭で食事会（夕涼み会）、家族や年2回の外食（花見、ソーメン流し）、玉ねぎの皮むき、ゴマすり、レタスちぎりなどのお手伝いをされる方もある。また、利用者の中には、近くの自動販売機まで飲み物を買に行かれる方もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段の食事量や水分摂取量は全職員が把握している。体調不良や食欲不振等により摂取量に変化のある場合は、食材、調理法、盛り付け、食器、摂取時間、介助方法等を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、誘導を工夫し本人の力に応じた口腔ケアを支援している。義歯等洗浄剤使用や、必要に応じて歯科受診を支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェックをし、排泄パターンを把握して適宜声掛け等の誘導をしている。車椅子使用の利用者も日中はもちろん、要求に応じてトイレ誘導を行っている。	昼間は、トイレで排泄ができるようケアしているが、夜間帯は“睡眠確保”を重視して、オムツを併用するなど支援している。利用者は、年々重度化してきているが、排泄のリズムを掴みオムツの利用が減らせるよう配慮し、毎日気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握している。日頃から体調に合わせて、一人ひとりに対し、食材、調理法を吟味し、水分摂取の声掛け、運動等による便秘予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的な入浴サイクルはあるが、その日その時の本人の体調、希望に合わせて入浴の支援をしている。入浴時には適宜、入浴剤の使用や会話でも楽しんで頂いている。	予め入浴日は決まっているが、本人の希望に応じて入浴の支援をするなど柔軟に取り組んでいる。また、入浴の順番も臨機応変に対応するなどして気持ちよく入浴が楽しんでいただけるよう、入浴剤を活用したり移動の安全確保のため、二人対応で支援するなど取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を出来るだけ踏襲しながら、日中の様子と併せて夜間の様子、またその時々心身の状況を考慮しながら今現在の安眠・休息のスタイルを支援している。不眠時には温かい飲み物の提供、話し相手等して不安やストレスの軽減を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の説明書のファイルがあり、全職員がいつでも確認できる。服薬時にも薬の名前と利用者の相互確認をし誤薬を防いでいる。また、薬の変更時には特に、前後の症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事、野菜、花作り、ちまき作り等、利用者の趣味や経験を發揮して頂ける環境作りや行事を行っている。また、地域ならではの風習、言い伝え等教えて頂ける事は多く、利用者、職員双方の楽しみでもある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩、買い物、家族との外出等、いつでも外出できる支援に努めている。季節の行事として、花見、ソーメン流し、コスモス見学、紅葉狩り等地域の名所に出かけている。	気候の良い時期は管理者と一緒に朝夕ホーム周囲を散歩して、地域の方々とも交流したり車での外出など支援している。桜の公園、曾木の滝、もみじ狩りなどの名所への外出も恒例になっている。また、2カ月に1回程度家族と一緒に温泉に出かける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者によっては少額のお金を利用されている。大多数の利用者のお金（お小遣いとしての）は事業所で預かり、外出の際には本人に渡して買い物を楽しんで頂ける様支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居時に、本人家族双方が自由に連絡を取って頂ける旨を説明している。携帯電話を保持しておられる利用者や手紙の代筆依頼もあり、それぞれに支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は車椅子やシルバーカー、歩行器等がゆっくり離合できるようなスペースを設けてテーブルやソファを配置し、お好きな場所で過して頂いている。季節の花や壁飾りを置き、台所での食事準備の音や匂いでも生活感を感じて頂いている。</p>	<p>共用スペースには、利用者がゆっくり過ごせるようソファが設置してあり、窓からは菜園や花壇の花々を見ることができる。採光もあり、広々とした空間で季節の生花も飾ってあり、壁には行事の写真や利用者の作品など掲示されている。ダイニングキッチン是对面式になっているため、食事の準備をお手伝いする方、調理の匂いや音、職員と利用者の会話などが五感を刺激して生活感あふれる家庭的な雰囲気である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間は一体的な作りになっているが、椅子の位置、ソファの位置、職員の居場所等で他利用者の目に触れない個所もあり、それぞれに過して頂けるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に馴染みの家具をご持参頂けるようお願いしている。最初の設置も季節の様様替えも本人に確認しながら共に行っている。ご位牌、観葉植物家族の写真等の持ち込みで、それぞれの居心地の良い居室作りを支援している。</p>	<p>居室の入口には、利用者思いの“のれん”が掛けてあり、各々の個性がありプライバシーの確保にも一役買っている。利用者の身体機能に応じたベッド、テレビ、椅子やテーブル、位牌、家族の写真、観葉植物など思いの馴染みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関のスロープ、ホーム全体のバリアフリー、車椅子等でも自由に往来できるスペースの確保をし、居室の表札、トイレ等の目印、職員のメッセンジャー的役割等の環境整備に力を入れて、自立した生活を支援している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない